

令和元年度

事業所名：グループホームやすらぎの里

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370700288		
法人名	社会福祉法人 門前保育会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	〒028-023 岩手県久慈市新中の橋4-12-2		
自己評価作成日	令和2年2月4日	評価結果市町村受理日	令和2年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=0370700288-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年2月18日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○利用者の一日24時間の生活の中で、「できる部分」に着目して、朝や午前・午後の軽い運動から物作り、作業、食事のお手伝いやゲームなど日常に活かせるように支援している。 ○職員誰もが笑顔で接する中で、利用者も心を開き何でも話し合えるような関係を築いている。 ○隣接する保育園の行事や園児の皆さんが施設への慰問をする中で、利用者が笑顔のあふれる交流をしている。

市の中心部に位置する開設16年目の事業所で、市立図書館や体育館も近くにある。同一法人の保育園が隣接し日常的な園児との触れ合いや、園行事への参加、畑で園児と一緒に野菜栽培を行うなど、利用者の生活に豊かさや潤いをもたらしている。介護計画の原案は担当職員が作成し、ケアマネが目を通し全職員でカンファレンスをしており、利用者一人一人の実態に応じたケアの共通理解を図りながら、職員の育成にも力を入れている。久慈川が近くを流れ、去年の台風の際には、利用者を安全な場所へ避難させた経験から、市の防災担当とは緊密な連携関係が保たれている。近所の住民の中から避難時の協力者を確保できており、緊急時の心強い支援者となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホームやすらぎの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの時に、当施設の運動理念を復唱して日々認識を高めている。また、理念に沿った対応が出来ているか職員同士で意見交換が出来ている。	開設時の理念を10年ほど前に変更して現在に至っている。玄関に掲示し、朝の申し送り時に理念を復唱し職員で確認合っている。「その人らしさを見つけ出す」という理念に基づき、個別ケアにおいても各利用者に合ったケアを心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、畑作業等の時に地域の方々との挨拶や交流が出来ている。	事業所地域に町内会はないが、近隣の町内会と交流し、敬老会に参加したり、除草ボランティアとして来所してくれている。隣接する同法人の保育園と日常的に交流があるほか、地域の中学校からは毎年職場体験の生徒が訪れている。昨年の浸水被害の片づけには、中学生がボランティアとして来てくれた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験、福祉体験を実践している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員も交代で出席することにより委員の方の意見等を直接聞くことが出来る。他の職員には議事録を回覧して内容を共有して日々の仕事に反映している。	元民生委員や地区の区長のほか、行政や介護保険関係者、家族代表で構成されている。特に昨年11月の会議では、10月の台風災害時の避難に関する研修を行い、消防関係者とも意見交換する等、有意義な話し合いを行っている。安全安心な事業所運営への理解と協力が深まったと感じている。	議題や内容に応じた方を招聘し会議の充実が図られている。現職の民生委員や老人クラブ関係者・学校関係者など多様な方々の参加により、一層の地域との連携や交流が進むよう期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に、市の担当係長を委嘱しており、推進会議の外に国や県、市からの情報のやり取りが出来ている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に毎回参加しており、連携が図られている。また昨年来、台風災害時の避難行動を中心に運営推進会議で研修会を開催するなど、防災担当との連携も強化している。生活保護CWの来訪が無いことを残念に感じている。		

[評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠はしていない。職員の業務会議に「身体拘束」の話し合いをしている。また、スピーチロックに関しては職員同士で注意し合っている。	身体拘束廃止の指針を定め、施設長と職員で構成する委員会が、定例の業務会議後に研修会を開催している。言葉による行動抑制は職員間での気づきを大切に、「言葉の言い換え」をするなどに留意して日々のケアに当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の申送りの時や、業務会議で話し合って未然防止に努めている。また、常に職員間で声を掛け合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種講習会等により学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をしている。家族の不安や疑問にはその都度説明を行い安心や理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望に沿えるように、職員の共有情報として常に検討している。日々の中で利用者や家族が意見要望を話しやすい環境にしている。	広報誌「けやぐ」と共に利用者一人一人の様子を記録して毎月家族に届けている。家族とは来訪時に面談しており、よく話してくれる方が多い。生活面、医療面の不安や、利用者のこれからにすることが多く、運営等の参考にし対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議で話し合っている。	毎月の業務会議で職員が意見を出し合っている。勤務時間や業務の内容・分担などが多い。昨年の夏は暑さが厳しく、エアコン導入の提案があり実現された。県北地区の協会主催の交換研修会に参加し、経験を豊かにしている。	業務会議の中で職員意見の把握は行われているが、個別面談は行われていない。施設長等との個別面談を通じ、職員の意欲向上や業務の改善が一層進むことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務内容については、職員が働き易いように話し合いその都度改善に努めている。職員の家族の状況等を考慮して、可能な限り勤務日や時間の融通を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等には管理者からの「促し」や本人の希望による参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの交換研修会を実施(年1回)しており、職員も交代で参加できている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のお話を傾聴したり、声掛けにより気軽に話し易い環境が作られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に、どのような不安や要望があるか聞きだすようにしている。施設に来た時に、気軽に話が出来るように心掛け「信頼関係」を構築できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの時に家族の皆さんと応接室でじっくりと要望や希望を聞き取りして、「施設内のサービス情報」として役立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者と一緒に活動することにより、お互いに「協力し合っている」という心の通じ合いを作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の受診は家族対応しており、その状況をタイムリーに理解いただいている。また、利用者に何が一番良いか家族との会話の中で共有できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	利用者は、馴染みの床屋に散髪に出掛けられるようにしており、機嫌良く帰ってくる。	近所のスーパーに買い物に出かけて馴染みとしている利用者がある。また、昔からの理容店に出かける方のほか、近所の理容店を馴染みとして利用する方もいる。盆や正月には実家に帰って外泊する利用者もいるが、徐々に少なくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つ一つの作業に、利用者皆に声掛けをして共同で取り組むようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも職員が面会に伺う等、利用者だった人や家族との関係は継続し、いつでも相談の窓口になるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望に沿った支援が出来るように職員がミーティング等で話し合っている。	思いや意向を言葉で話せない方が増えており、例えば、黙って立っているときには何かを訴えたなど、何気ない仕草や表情から思いを汲み取ることに努めている。大勢の中では話さない方でも、入浴中は職員と1対1となり気持ちがほぐれ、意向や思いを聞き出す機会の一つとして大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が前に自分で使っていた物を持ち込んで使わせることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけホールに集まってお茶屋やおやつ、共同作業を通じて、一人ひとり心身状況や健康状態を把握するように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来所した時の話や月初めの業務会議を通じて、介護の計画や課題を職員間で共有している。また、体調の変化等の場合は「申送り」で話し合いながら進めている。	介護計画の原案は、利用者の担当職員が作成することとして、担当者の関わりを強くするように工夫している。その原案をケアマネが確認し、業務会議でカンファレンスし決定する。モニタリングは3ヵ月、見直しは6ヶ月を基本とし、家族や主治医からの情報も加味している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子や気付いた事等を、個人ごとにケース記録に書いている。また、共有したい情報を連絡ノートに記入し、申送りや業務会議で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の「やってみたい」、家族の「してほしい」の声に応えていきたいと思い取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの床屋での散髪や買い物でも最寄りのスーパーに行くなどして、地域の人に顔を知ってもらうようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は情報提供をしている。また、利用者に「体調変化」が見られた時は職員も病院に同行して助言や指示をもらうようにしている。	入居前のかかりつけ医を家族同行で受診している方が多い。ホームの様子はメモとして家族が医師に届けている。協力歯科医が年2回来所して訪問診療を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に気になる状態が見受けられた時には、当法人の看護婦に相談している。訪問看護を利用している利用者がいた際には状況を報告して医師や看護婦から助言を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時サマリー提供をして、入院中は家族から状態の確認を行っている。また、退院時には当施設職員もカンファレンスに参加して、今後の支援につなげるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族がかかりつけ医者に相談して施設でできる範囲のサービスを提供している。なお、当施設での看取り介護をしないことは入所時に説明して理解を得ている。	重度化対応や看取りはしない事を説明し、同意を得て入居している。重度化しても出来る限りの介護支援を行っているが、経管栄養が必要となった場合や寝たきりとなる場合には特養などの他施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練や通報訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等の避難訓練は、隣接する保育園と共同で実施。また、水害被災の避難では過去の経験から水害被災時は全職員が早めに対応して迅速な避難が出来ている(昨年秋)。	昨年10月の台風等の災害で2回近くの避難所へ避難し安全確保を図った。市の防災担当と協議を重ね、近くの子ども会館を非常時避難所とした。近隣の4家庭が避難時協力者となっており心強い。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた「声掛け」を行っている。また、「異性」に対して拒否感のある利用者には同性の職員が対応している。	人格を尊重し丁寧な言葉遣い使いに配慮している。利用者によって丁寧な言葉を嫌い方言を好む方もおり、一人一人に配慮した言葉掛けを行っている。トイレ誘導時などははっきりと言わないと伝わらない方が増えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思で「自己決定」が出来るように質問するように心掛け、職員が一方的に決めることの無いようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者のペースで行いたい、他の人と重複するすることもあり、希望を叶えられない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の想いに任せている。利用者の身だしなみや化粧、おしゃれの際は職員もお手伝いすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の力に合わせて、野菜の皮むきやお茶注ぎ、盛り付け、テーブル拭き等を手伝ってもらいながら食事の準備をしている。	職員が交代で献立作成や調理を行っている。食材は近くのスーパーで、時に利用者と一緒に購入している。地域の方や利用者家族からの差し入れされた食材や、隣接の保育園と共同の畑で栽培したトマトやナスも活用している。ホットケーキ、団子などのおやつは、利用者と一緒に楽しく作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調に応じて、食事のメニューを変えたり手を加えたりする。また、食べ残しが無いよう観察しながら支援している。水分も利用者の嗜好を調べながら十分な水分が摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きを全員に励行している。また、夕食後には職員が一人ひとりの入歯を磨く等の支援をしており週2回は「入歯の洗浄」を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声掛けをしている。リハビリパンツの使用は出来るだけ避けて「布パンツ」を使用している。また、パットの使用希望があれば使用している。	日中はリハビリパンツが1名で他は布パンツを使用しオムツ利用はいない。排泄チェック表により適時のトイレ誘導で、全員がトイレで排泄している。在宅時はオムツを使用していたが、入居後布パンツ利用に改善した方が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす機会を出来るだけ設けるために、朝の体操や午前・午後の室内リハビリ、散歩を取り入れている。また、利用者が好む飲み物などで水分の補給をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設けている。また、利用者が入浴を拒む場合にはタイミングを見つけて話しかけ入浴を促す等に努めている。	檜の浴槽で、季節に応じ菖蒲湯や柚子湯として楽しく入浴している。週2回の入浴を原則とし、職員と1対1で寛ぎ会話も弾む。入浴を嫌う方が1人いるが、他は30分程の入浴を楽しみにしている。体調により足湯とすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に午睡する方もいるが、夜の睡眠時に影響が出ないように注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の入所時に服用している「薬の確認」をしている。また、薬が変更になった際は職員同士が連絡し合い、その後の症状の変化等を注意し観察してもらう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各々の好きな食べ物を把握し、飲み物やアメ、キャラメル等を家族から用意してもらい、食事やおやつ以外にも食べられるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に利用者と家族とが定期的に時間を過ごしてもらうために、外出する機会を設けている。	ホーム周辺を、2、3人のグループで散歩したり、近くのスーパーや薬局へ食材や私物の買い物によく外出している。施設行事として、保育園のバスを利用した春や秋のドライブが恒例となっている。家族との通院後に外出、外食し、自宅へ寄る方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っている人は限られているが、手持ちのお金の無い人には施設で預かっているお金から支払いができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が年賀状を家族に出したり、贈り物が届いた時には自分で「お礼の手紙」を進め時折書いていることもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は、ロビー兼食堂から中庭が見え季節の花を見ることが出来る。また、隣接する保育園の園庭が見えることで、遊びまわる園児は勿論、入園式や運動会、秋祭りの太鼓、卒園式の様子など季節の移り変わりを味わっている。	木造・和風の建物で中庭を囲む廻り廊下がある落ち着いた寛いだ空間である。ホール兼食堂は広々とし、隣の保育園が見え日中思い思いに過ごしている。壁面に利用者と職員が一緒に作った折り紙や切り絵が飾られ彩りがあふれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置くことで、施設前の道路を眺めながらゆったりと過ごしている。また、夏場にはみんなが広場や施設周辺の草取りを共同で行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族と相談して、入所前に普段使っていた馴染みの「もの」を持ち込ませている。また、入所後に必要な物を持ち込むこともある。	和室6室、洋室3室で洗面台、たんす、ベッドが備えられている。壁面には家族写真、寄せ書き、折り紙作品、カレンダーが飾られ、テレビを持ち込んでいる方もおり、それぞれ居心地の良い居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの部屋(個室)が同じ様な入口の為に個人ごとの目印をつけている。それでも利用者の中には自分の部屋が分からなくなることもあり、自分の部屋に案内している。		